

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価（3月20日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①キャリア教育の視点で小学部から高等部まで学習内容の系統性を整理し、教育課程を再編成する。 ②児童・生徒のニーズに合わせたコミュニケーション能力の向上を支援する。	①新学習指導要領の内容を視野に入れ、各学部の教育課程の内容の整理・点検をすすめる。 ②各学部のiPadを活用した授業実践を広める。また、子どものニーズに合わせた教材・教具開発に取り組む。	①毎月1回管理職・総括教諭等で教育課程学習会を実施する。 新しい学習指導要領について学習会を実施し、職員全員で情報共有を行う。 平成28年度に引き続き授業改善の取組をすすめる。 ②各学部にiPad推進担当者を指名し、活用事例を共有する。 iPad学習会を継続して実施する。 地域を巻き込んだ教材・教具研修会や教材展を実施する。	①毎月1回管理職・総括教諭等で教育課程学習会を実施することができたか。 新しい学習指導要領について学習会を実施し、職員全員で情報共有を行うことができたか。 平成28年度に引き続き授業改善の取組をすすめることができたか。 ②各学部にiPad推進担当者を指名し、活用事例を共有することができたか。 iPad学習会を継続して実施することができたか。 地域を巻き込んだ教材・教具研修会や教材展を実施することができたか。	①当初は管理職による学習会を行ったが、その後継続することができなかった。新しい学習指導要領についての学習会も同様であり、年度末に総括教諭の実施となった。 ②各学部にiPad特命専任を指名し、活用事例を共有することができた。 iPad研修会の継続や、地域を巻き込んだ教材・教具研修会や教材展を実施することができた。	①新学習指導要領については、重点的に研修会を行い職員周知が必要である。そのため、総括教諭等が中心となり新学習指導要領に基づいた教育課程の編成の確認等、研究とともに推進し、津久井養護学校ならではの取組を行う。 ②iPad特命専任を引続き各学部に配置し、研修会を行い、活用を推進するとともに、より具体的に児童生徒の自主性や主体性を引出す教材として活用していく。	【評議員】 個別教育計画の評価を2回行っていることは良い。「いじめ」についてトラブルはあるが、未然防止ができており、いじめとなっていないことは良い。 【保護者】 保護者連携や地域連携を行い、共通理解を進める取組を今後も継続してほしい。小規模なので全学部が交流できる授業があると良いと思う。	保護者【評価数値】抜粋 ○個別教育計画 満足 69%、やや満足 27%、やや不満 2%、不満 0%、わからない 2% 教員【評価数値】抜粋 ○教育課程学習会 達成 12%、ほぼ達成 40%、やや未達成 36%、未達成 12% 各学部の指導内容等について検討され、深めることができています。新学習指導要領の学習会を計画したが、学習会の回数、内容とも深めることができなかった。キャリア教育の視点で系統性と教育課程の再編成について再度取組む必要がある。	新学習指導要領の学習会、研修会等を実施して、さらにキャリア教育の視点で系統性と教育課程の再編成について再度取組む。 iPadの推進を図るとともに、コミュニケーション能力の向上に向けた取組を学校全体で進めていく。 個別教育計画の評価の仕方やいじめ防止会議を引続き実施し、職員の理解を深めていく。 全学部が交流できる授業について検討し、実践につなげる。
2 児童・生徒 指導・支援	①児童・生徒一人ひとりの多様なニーズに応える支援教育を組織的に推進する。 ②専門職と協働できるシステムを構築する。	①児童・生徒の社会自立につながる授業実践を行う。 ②アセスメントを大切にした個別教育計画（新様式）の取組を行い、子ども一人ひとりに合わせた授業実践を行う。	①小・中学部において、「いのち」の授業を子どもたちに理解しやすい単元として取り上げる。 高等部において、政治参加教育の具体的な実践に取り組むことができたか。 ②アセスメントについて、校内研修を充実させ学習評価の検証を行う。 （新）個別教育計画にアセスメント、学習評価をわかりやすく記述できるようにする。	①小・中学部において、「いのち」の授業を子どもたちに理解しやすい単元として取り上げることができたか。 高等部において、政治参加教育の具体的な実践に取り組むことができたか。 ②アセスメントについて、校内研修を充実させ学習評価の検証を行うことができたか。 （新）個別教育計画にアセスメント、学習評価をわかりやすく記述できるようにすることができたか。	①小学部は、「いのち」の授業を子ども達に理解しやすい作物を通した育てる喜び等を目的として取り上げることができた。高等部は、政治参加教育の具体的な実践に取り組むことができた。 ②アセスメントについて、KIDS、太田ステージ、NCプログラムを実施し評価を個別教育計画へ反映し、担任間、指導者間で実態を共有することができた。	①いじめの未然防止として「いのち」の授業を次年度も児童生徒の実態に応じた理解しやすい単元を設定して取り組む。政治参加教育について、今年度は3年生からの取組となったが、次年度は1年生から段階的に取り組んでいく。 ②アセスメントについて、今後も校内研修を充実させ学習評価の検証を行う。KIDS、太田ステージ、NCプログラムを活用した評価を個別教育計画へ反映し、一人ひとりに応じた授業実践を継続する。	【評議員】 「いのち」の授業については学校で取り組んでいる内容すべてが「いのち」の授業であると思う。そのように良いと考える。	保護者【評価数値】抜粋 ○共通理解 満足 73%、やや満足 23%、やや不満 2%、不満 0%、わからない 2% 教員【評価数値】抜粋 ○高等部政治参加教育 達成 50%、ほぼ達成 32%、やや未達成 7%、未達成 11% 「いのち」の授業について、各学部が指導方法や内容を工夫し、児童生徒に合った指導を行うことができた。今後、内容の充実や系統性が課題である。高等部の政治参加教育を行った結果、高等部が具体的な取組が行え、生徒へのイメージづくりができた。外部評価は高いが、校内での他学部の取組について、理解されていないことがアンケートの数値より伺える。	各学部が具体的な取組目標と指導内容を職員に周知し、今後もいじめの未然防止としての意味も含み「いのち」の授業や、政治参加教育について模擬投票を実施し、充実させた取組を行う。 アセスメントによる実態把握と共通理解を今後も継続し、個々の児童生徒に合わせた授業実践に反映していく。そのために各学部によるアセスメント研修と共通理解の場を設定し、チームで取り組んでいく。 他学部の取組を学校全体で理解するために、校内での共通理解の機会（学部の取組紹介）等を具体的に計画する。
3 進路指導・ 支援	①小学部から高等部までの一貫性のあるキャリア教育を推進する。 ②児童・生徒の実態や地域性に合	①各学部ごとと自立と社会参加に向けたライフキャリア教育に基づいた授業改善を職員全員で行う。	①各学部ごと、全員で授業改善を行うことができたか。 経験職員と若手職員が授業を見合い語り合える校内授業公開を継続する。 ②地域資源を活用した作業学習や現場実	①各学部ごと、全員で授業改善を行う。経験職員と若手職員が授業を見合い語り合える校内授業公開を継続することができたか。 ②地域資源を活用した作業学習や現場実	①各学部を通して、全員で授業改善、校内授業公開を行うことができた。また、キャリア教育に基づき、公共交通機関の利用、買い物学習や体験的な活動を実施することができた。高等部ではシラバ	①授業研究と研究協議日が同一日にもってない課題がある。研究協議日まであまり間があくと当日の印象が薄れる懸念がある。日程調整だけではなく、内容保持のための工夫を行う。	【評議員】 進路等、学習の中で卒業生との関わりを増やすと良いと思う。 【保護者】 各担任の先生や他の先生、進路指導の先生方の	保護者【評価数値】抜粋 ○授業の工夫 満足 62%、やや満足 32%、やや不満 4%、不満 0%、わからない 2% 教員【評価数値】抜粋 ○授業改善 達成 59%、ほぼ達成 33%、やや未達成 7%、未達	日程等の課題があるが、授業改善について、地域資源や環境を生かした取組が行えており、今後も継続しながら取組を充実させ、学部ごとの系統性を意識したキャリア教育を推進していく。 自立をめざし高等部在籍中

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月20日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		わせきめ細かく配慮した進路支援・相談の充実を図る。	②地域の特性を活用した作業学習や現場実習を執行し進路支援システムを検証する。	習を実施する。自力通学がより広がるような見守り支援システムや職員体制を実現する。	か。自力通学がより広がるような見守り支援システムや職員体制を実現することができたか。	スの見直し、指導内容一覧の修正等を行った。 ②高等部の作業学習では、交流センターに納品、陳列活動を行い、校内実習ではエコたわしやコースター製作に取り組んだ。地域の企業や施設協力のもと現場実習を行った。自力通学がより広がるような見守り支援システムや職員体制を実現することができ、年度末に関わるボランティアの連絡会を行った。	②校内実習資材の安定した確保が課題であり、提供先の企業や施設開拓に継続的に取り組んでいく。見守り支援システムが実現できたが、自力通学の生徒数はまだ少ない。自立をめざし高等部在籍中に自力通学に取り組めるような様々な機会について話していく。	子供への関わり方、保護者への情報提供の充実等に驚き、たのしく思っている。	成 2% ○見守り支援 達成 51%、ほぼ達成 42%、やや未達成 2%、未達成 5% 授業改善について、各学部でより良い授業について検討されている。授業研究と研究協議日が同一日に持てない課題がある。 見守り支援システムや職員体制について、年間活動の確立ができたが、課題の整理と活動の安定化を図る必要がある。	に自力通学に取り組めるように工夫する。 学習内容によっては卒業生との関わりを検討していく。
4	地域等との協働	①共生社会の実現を目指し、地域と連携したインクルーシブ教育を推進する。 ②センター的機能を充実させ、地域へ情報発信する。	①地域密着型の交流及び共同学習をより具体的にすすめる。 ②地域をまき込んだ障害者余暇支援等を行い地域と連携するシステムを構築する。	①小学部は一人ひとりの居住地交流について有意義で参加しやすい方法を検証することができたか。 中学部は学校間交流や地域交流会を一步すすめて校外活動等でも交流をすすめる。 ②スポーツ教室、ダンス教室を地域住民、PTAと連携し実施したり、卒業生の余暇支援を検証することができたか。	①小学部は一人ひとりの居住地交流について有意義で参加しやすい方法を検証することができたか。 中学部は学校間交流や地域交流会を一步すすめて校外活動等でも交流をすすめることができたか。 ②スポーツ教室、ダンス教室を地域住民、PTAと連携し実施したり、卒業生の余暇支援を検証することができたか。	①小学部は5名の居住地交流を4校の小学校で行い、その内1名は児童の実態により、もう1名は兄弟配慮により居住地校ではない近隣の小学校で交流を行った。中学部は交流会で昼食時間を共有する取組みや、公民館へ作業で作成したしおりを届けるなど、物を介した地域の方との交流をすすめた。 ②スポーツ教室、ダンス教室を地域住民、PTAと連携して実施し、卒業生の余暇支援などで5回実施することができた。	①小学部は次年度も児童の実態や保護者のニーズに応じた有意義で参加しやすい方法で実践し検証していく。 中学部の支援級との交流は作業学習を中心に通常に近い授業の中で行う。通常級との交流は生徒自身や相手校の状況にも大きく左右されるので、交流に限らず地域に出て生徒が力を発揮できる活動に取り組む。 ②地域の小中学校や本校の卒業生に呼びかけて実施することができたので、今後も継続し、実施する。	【評議員】 小中学部が外に出て他の人と交流することは良いことだと思う。遠慮なく外へ出たほうが良い。交流及び共同学習では自然にさりげない交流が素晴らしい。今後もぜひ継続してほしい。ボランティアの意見交換の場を設定できていることは良い。AED研修を保護者にも行ってほしい。	保護者【評価数値】抜粋 ○交流活動 満足 56%、やや満足 36%、やや不満 2%、不満 0%、わからない6% 教員【評価数値】抜粋 ○余暇支援 達成 69%、ほぼ達成 29%、やや未達成 2%、未達成 0% 地域密着型の交流及び共同学習をすすめることができている。 スポーツ教室、ダンス教室について、2年目の取組みというところもあり、浸透してきた。2回のダンス教室については参加者が固定化されてきている。	小学部および中学部において、実態に応じて交流及び共同学習を進めることができていく。学校間交流や居住地交流の実態を他学部の職員と共有し理解が図られるように校内掲示等で周知していく。 本校の相模原市における交流教育の実証研究については、相模原市教育委員会とさらに連携を図り、取組みを深めていく。 スポーツ教室、ダンス教室について、参加者を広げる方法を考え、ダンス教室を1回にして、もう1回は新しい内容で検討していく。
5	学校管理 学校運営	①教職員の専門性向上を推進するための校内システムを構築する。 ②保護者、地域と協働した、安全で安心な学校運営を行い、地域に向けた発信力の向上を図る。	①職員の教職経験や能力を活用した全員参加の授業改善に取り組む。(教え合い・学び合い・語り合える授業改善) ②地域・保護者へ情報発信を行い、具体的な防災活動を実施する。	①研究を中心にチームで授業ミーティングを行う。若手と経験職員のグルーピングを工夫し、OJTで学校運営を行う。 ②引取り(渡し)訓練や被災体験(宿泊等)具体的な訓練を実施する。 地域・PTAと連携を深め、災害対策について検討を進める。	①研究を中心にチームで授業ミーティングを行うことができたか。若手と経験職員のグルーピングを工夫し、OJTで学校運営を行うことができたか。 ②引取り(渡し)訓練や被災体験(宿泊等)具体的な訓練を実施することができたか。 地域・PTAと連携を深め、災害対策について検討を進めることができたか。	①ミーティングは様々な角度からの意見を出し合い、授業実践につなげることができた。グルーピングを若手・経験職員としたため日々の研究の取組み自体がOJTとして機能した。 ②防災宿泊学習を実施し、保護者への引渡しも行うことができた。孤立対策推進地区対応訓練に会場提供を行うため市との話し合いが多く行えた。地域との連携を図り、防災・減災に向け理解啓発を行った。	①グループミーティングにおいて、特に若手教員より具体的な意見を引出す場面設定の工夫を行う。 ②地域の一時避難場所としての動きを整理する必要がある。地域と協働した防災宿泊訓練を推進し、小学部、中学部も含めた防災教育の充実に取り組む。	【保護者】 防災について、単なる形だけのことはなく、実践を想定した取組みがあり、とても心強い。今後も続けてほしい。イザという時、地域との共生がスムーズになると思う。普段の生活の中でも、地元の方の優しい見守りが感じられる。学校が働きかけているからだと思う。	保護者【評価数値】抜粋 ○防災教育 満足 78%、やや満足 18%、やや不満 2%、不満 0% わからない2% 教員【評価数値】抜粋 ○防災訓練 達成 71%、ほぼ達成 29%、やや未達成 0%、未達成 0% 職員の教職経験や能力を活用した全員参加の授業改善に取り組めた。しかし、若手教員の具体的な意見を引出す取組みの工夫が必要である。 防災教育について、今年度、高等部による宿泊訓練を行うことができ、内部評価、外部評価とも高いアンケート結果が得られている。	次年度より2年間「特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究」に取り組む。若手教職員の専門性の向上のため、意見を引出す場面や、チームとして指導方法、内容等が深まる設定を工夫する。 地域と協働した防災宿泊学習を推進していく。地域への積極的な告知等の方法を考え、防災交流学习(小中高)「自助、共助を養う」の機会をつくる。学校として市、自治会との連携強化、避難所運営会議等への参加を進める。